

高 下関北高校だより

(令和4年9月16日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地

TEL(083)782-0023 FAX(083)782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。

<http://www.shimonosekikita-h.ysh21.jp>

■ 面接ガイダンスⅡを実施しました。

4月26日(火)に続き、7月1日(金)に大原簿記公務員専門学校から森正登(まさと)先生をお招きし、3年生対象の2回目の面接ガイダンスを実施しました。

2回目の今日は、前回学んだ進学や就職時における面接事項やマナーに関する基礎的内容を思い出しながら、面接会場への入退室を実際に行ってみました。ドアのノックは何回、元気のよい挨拶をするタイミングは、椅子の左横まで進んだら最初に面接官に伝えることは、椅子への着席は、席を立つタイミングや退出時の所作や挨拶を一つひとつ確認しながら半数近くの生徒が行いました。

質問内容は「あなたの長所は何ですか」でした。最初は恥ずかしそうで、なかなか思うようにPRできませんでしたが、順番に練習する内に気をつけるところが少しずつ分かってきました。面接では第一印象が大切。高校生に相應しい立ち振る舞いができるよう頑張る練習しました。



■ 壮行式を実施しました。

7月6日(水)、第104回全国高等学校野球選手権山口大会に出場する硬式野球部、第100回全国高等学校相撲選手権大会に出場する相撲部の壮行式が行われました。硬式野球部は7月10日に小野田高等学校と1回戦を戦います。相撲部は7月26日から高知県高知市の高知県立県民体育館で個人戦に出場します。

各部の顧問からの大会紹介に続き、各部の主将から大会の概要や抱負が述べられました。そして校長先生、生徒会副会長の山田さんから激励の言葉が贈られました。

そのあと、応援団が「いよいよ戦いの火ぶたが切られる。この一瞬のためにどれほどの汗と涙を流してきたであろうか。どれほど泥にまみれてきたであろうか。その努力をぶつけるときがきた。みなの中での努力は我々の日々の一瞬一瞬の努力につながるものでもあり、みなの中に我々の魂も重ねて檄なる声をとばすことをここに誓う。勝利の歓喜に包まれるか、敗北の悔しさに涙するか、勝負である以上、結末はどちらかである。しかし、いずれにせよ今回の戦いが、次の大なる飛躍の一步とならんことを信じる。そして、それは、他ならぬ、我々の一步にもつながるものと信じている。硬式野球部、相撲部と、我々北高生すべての幸いを祈って、ここにエールを贈る。」と応援に寄せて言葉を送り、エールで選手たちを励ました。最後に全校生徒で校歌を熱唱し、応援委員による硬式野球部への千羽鶴の贈呈を行いました。

北高生としての誇りを持ち、勝利をめざして正々堂々と最後まで全力を尽くしてほしいと思います。



■ 生徒会役員選挙(立会演説会)を実施しました。

7月7日(木)に、生徒会役員選挙(立会演説会)を実施し、生徒会長に2年生1名、副会長に2年生2名、監査に1年生3名が立候補しました。

立会演説会では、冒頭に、選挙管理委員長長の藤田美月さんが「学校運営の中核、地域との架け橋となる重要な役割を担う新しい執行部を選ぶ」という選挙の大切さについて触れながら挨拶をしました。

その後、応援演説者が立候補者の人柄や日頃の様子など推薦理由について、立候補者が立候補の理由や選ばれた場合の抱負を力強く述べました。以下、立候補者の熱いメッセージの一部を紹介します。

「生徒一人ひとりの意見が出しやすい雰囲気づくりに努めたい」、「去年から続けている小学校、中学校と連携した地域活性化に向けた取組を進めていきたい」、「前年度の生徒会執行部の経験を活かし学校を盛り上げたい」、「北高の行事に積極的に携わりたい」、「今までの自分を変えて積極的に活動したい」、「学校行事の運営や学校を良くしていこうとしている生徒会執行部の役に立ちたい」、「自分がどこまでやれるのか知りたい」など、学校生活の充実に関すること、北高のよき伝統を継承することについて、立候補者の熱い思いが語られました。



■ 車いす体験を実施しました。

7月8日(金)5・6時限に、2年生の「生活と福祉」の授業で車いす体験を実施しました。

最初に使用方法を復習し校舎外のスロープや砂利道、段差、溝などを利用して実習を行いました。車いすの移動では、①車いすの使用前の点検②利用者の状態の確認③安全なルート選択④押すときは必ず声をかける⑤段差、坂道では止まり声をかける⑥スピードはちょうどよいか確認する⑦会話をしながら楽しい雰囲気をつくるの7つの注意点に気をつけながら体験実習を行いました。



「ティッピングレバーを踏んで溝を越えることが難しかった。」「段差では、声をかけ利用者に振動を与えないように気を付けた。」「坂道を下りる時は、後ろ向きに下ると初めて知り、要介護者も安全だと思った。」「顔がお互いに見えないので会話しながら行うことが大事だと思った。」「いつ何時、介助する機会がないとは限らないので、今日の実習を忘れないようにしたい。」などの感想がありました。

車いす体験を通して、障害のある人や介助する人の置かれている状況について理解するとともに、バリアフリー社会の実現に向けて大切なことは何かを考える実習となりました。



■ 夏の高校野球が開幕しました。

7月9日(土)に第104回全国高校野球選手権山口大会が県内4球場で開幕しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で見送られていた学校応援が3年ぶりに解禁となりました。大声を出しての応援は引き続き禁止となっていますが、本校も応援団、吹奏楽部、チアガール、一般生徒の北高応援団を結成して会場に足を運びました。北高硬式野球部は7月

10日(日)にオーヴィジョンスタジアム下関の第2試合で、小野田高校と対戦しました。

初回はエースの小泉颯輝君が上々の立ち上がりで、相手打線を三者凡退に打ち取り、その流れで裏の攻撃で相手ピッチャーを責め立て2点を先制しました。その後も適時打で、5回に2点、7回に2点をとり、7回終了時点で6対0とリードして最終盤を迎えました。6回からピッチャーは小泉颯輝君から1年生の藤村奉矢君に継投し、守ってはキャプテンでシヨートの上野夏暉君を中心とした堅い守備でピッチャーを助けました。小野田高校も終盤に必死の攻撃で8回に1点、9回に2点を返しましたが、最終的には6対3で北高が勝利しました。

勝利後に下関北高の校歌が演奏され、声を出して歌うことはできませんでしたが、心の中で硬式野球部の生徒、応援に来た生徒と一緒に夏の大会で初めて流れる校歌を歌いました。



| TEAM | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | R | H | E |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|
| 小野田 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | | | 3 | 7 | 1 |
| 下関北 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | x | | | 6 | 9 | 2 |

| 7 | 8 | 9 | UMPIRE | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|-------------|------|-------|---|---------|---------|-----------|---|---|---|
| 4 | 6 | 5 | PL 18 28 38 | TN 2 | 6 | 5 | 9 | 8 | 7 | 4 | 3 | 1 |
| 4 | 6 | 5 | 小下 重 健 | 和 | 野 田 々 | 野 | 原 瀬 裕 部 | 北 野 夏 暉 | 本 岡 洋 川 村 | | | |



■ 教育相談講演会を実施しました。

7月12日(火)の7限目に、スクールカウンセラーの姜潤華(かん ゆな)先生による教育相談講演会を実施しました。教育相談講演会では、生徒の心理的、社会的健康を増進するため、困難な事態や強い心理的不安を受けた場合における、対処の具体的かつ実践的な方法を身に付けさせる心理教育プログラムを実施しています。

今回の講演のテーマは「自分流の問題対処法を考えよう!」。悩みごと困りごと、ストレス、中高生の悩みや不安、リフレーミング、問題や困りごとの良い面などについて、データ等を示しながら説明がありました。その後「あなたはこれまで自分の問題をどんな風に対処してきましたか?」という問いに対してワークシートに書き出すことを行いました。またコーピング(ストレスやストレス反応に対して、自分を助けるために、何らかの対処をしたり工夫したりすること)とマインドフルネス(自分の思考やイメージ、感情にあえてちょっとだけ距離を置き、眺めること)について説明され自分の

中に本来持っている力に気づき、自分のことを理解して、自分のやり方を変えていくと色々楽になることがあることを学びました。最後に①自分を理解し自分のやり方でやり過ごす工夫、②人の力を借りることはすごく大切な能力、③困りの程度によってはまず相談、の3つが大事であることを教えていただきました。

高校生は、卒業後の進路や受験、自身の学力や日々の勉強、友人関係など様々なストレスを抱えています。自分を追い詰めないやり方で、動きやすい方法を見つけることが大事で、人の力を借りることも大切な能力であることが分かりました。

